

2018年9月17日掲載

口内のがん

観察と触診 発見しやすい

日本では現在、2人に1人ががんにかかります。がんによる死亡者数は年間30万人を超え、死亡原因の第1位。ただ、診断と治療が進歩して、一部のがんは早期発見と早期治療が可能となりました。

皆さんは胃や肺、大腸のがん検診は受けられた経験があると思います。しかし口の中にもがんができるのをご存知でしょうか。口腔^{こうくう}がんは、がん全体からみると約1～3%と発症率は低いものの、口腔がんでの死亡率は日本では46%と、全28部位中で10位です。ちなみに米国での死亡率は19%なので、日本はその2倍以上。先進国では唯一、口腔がんでの死亡数が増加しているのが現状です。

口腔がんは、そのほとんどが肉眼で観察でき、手指で触診できるのが大きな特徴です。消化器疾患に対するとCT（コンピューター断層撮影）やMRI（磁気共鳴画像装置）のように、特別な診察器具がなくても発見しやすいがんと言えるでしょう。早期発見ができれば、口腔がん（ステージ1）の5年生存率は約90%で、後遺症もほとんど残りません。ステージが進行すると、手術も長時間で大掛かりになります。また、がんの大きさや転移の程度によっては手術ができない症例もあり、生存率はどんどん低下していきます。

少しでもおかしいなと思ったら、すぐにかかりつけの歯科医院で口腔がん検診を受診してください。